

『から騒ぎ』

ウィリアム・シェイクスピア作
ポール・ステッピングズ脚色・演出

あらすじ詳細

人物

ドン・ペドロ	アラゴン大公
レオナート	メッシーナ知事
ベアトリス	レオナートの姪
ベネディック	パドゥアの将校
クローディオ	フローレンスの伯爵
ヒーロー	レオナートの娘
ドン・ジョン	ドン・ペドロの異母弟
バルサザー	ドン・ペドロの従者
ボラチオ	ドン・ジョンの部下
マーガレット	ヒーローの侍女
ドグベリー	治安官
ヴァージス	小役人
フランシス修道士	

2 序幕

戦争にて、ドン・ペドロの軍隊は不実な弟ドン・ジョンの軍隊を倒す。

ドン・ジョンはクローディオに捕らえられ、心から悔い改めるのなら、兄からの許しを受けるであろうと告げられる。

2 第1場

大公ドン・ペドロの統治下にあるメッシーナの知事レオナートは、娘のヒーローと姪のベアトリスと共に戦場からの知らせを待っている。そして届いたのは良い知らせ。ベアトリスはベネディックについて、ヒーローはクローディオについて尋ねる 2人は戦地から帰還するのか？

ベアトリスはベネディックをホラ吹き自慢屋だとバカにする。ヒーローはクローディオが戦場で群を抜く勇士であったこと、そして今はベネディックの忠実な友であることを知らされる。

ドン・ペドロ、クローディオ、ベネディックが大手を振って登場。3人ともレオナートの厚意に甘んじ、この先1カ月をレオナートの元で過ごすことにする。

ベアトリスとベネディックはお互いの存在が気に食わない様子。 互いをバカにし、口論ばかりしている。

一方、クローディオはベネディックと2人だけになったとき、ヒーローへの想いを打ち明けるが、恋愛沙汰を毛嫌いし独身主義であるベネディックは自分の親友が兵士であることを後回しにし、夫となることが面白くない。ドン・ペドロまでもがクローディオの恋を後押しするのでベネディックはうんざりしてしまう。ドン・ペドロはクローディオがシャイなことを見て取り、夕刻に行われる仮面舞踏会でクローディオに成り済ましヒーローに求婚することを考えつく。クローディオは大いに喜ぶ。

2 第2場

レオナートに誤った報告をする者のせいで、レオナートは大公が娘ヒーローとの結婚を望んでいると勘違いする。

2 第3場

ドン・ジョンと邪悪な従犯人ボラチオが結婚式について話し合っている。クローディオとヒーローの結婚を阻止したいのだ。それはドン・ジョンのクローディオに対する復讐でもある。そこで彼らは悪巧みを思いつく。クローディオの耳に「ドン・ペドロは仮面舞踏会で彼を欺き、ヒーローと駆け落ちするつもりだ」と吹き込むのだ。

2 第4場

レオナートはドン・ペドロの求婚があれば受けるようにとヒーローに言い聞かせる。ヒーローはクローディオに好意があるため動揺してしまう。ベアトリスは、自分は結婚しないが、女性も夫を選ぶことができるはずだとヒーローに反発するように促す。

2 第5場

仮面舞踏会。舞踏会の騒ぎの中、ベアトリスはベネディックを侮辱、ドン・ペドロはクローディオに成り済ましヒーローに求婚、そしてドン・ジョンは仮面を利用しクローディオに近づき、ドン・ペドロはクローディオをだましヒーローを奪うつもりだと嘘をつく。クローディオは絶望し、全てが失われたような気持ちになるが、その後真実が明かされヒーローとクローディオは結ばれる。ドン・ジョンの企みは失敗したことになる。レオナートはヒーローとクローディオの結婚を承認し、数日の内に挙式の運びとなる。

一方、ベネディックとベアトリスの衝突はエスカレート　ベネディックはベアトリスに侮辱され、怒りがおさまらない。ヒーローとクローディオの婚約成立を見届けたドン・ペドロはクローディオ、レオナート、ヒーローにある提案をする。ベアトリスとベネディックを相思相愛の仲にしておこうというのだ。敵対しているように見える2人だが、確かにベアトリスとベネディックは似たもの同士だ！皆、作戦に賛成する。

2 第6場

ドン・ジョンは自分の企みが失敗したことに腹を立て、ボラチオを責める。しかしボラチオはもっと良い第2のプランがあると言う。彼はヒーローの侍女マーガレットと関係をもっている。そこで、マーガレットをヒーローの寝室の窓際に立たせ、自分とキスをして寝室へ入って行くところをわざと目撃させると言うのだ。クローディオとドン・ペドロがその場に居合わせ、目撃者となるように仕向ける。そうすればヒーローがクローディオを裏切っているように映り、伯爵であるクローディオに相応しい純潔な花嫁ではないと“証明”されるというわけである。ドン・ジョンはこの企みに賛成する。今度こそ復讐を果たすつもりだ。

2 第7場

レオナート、クローディオ、ドン・ペドロは果樹園にて集まる。ベネディックがその場に隠れていることを承知の上で、従者に切ない恋の歌を聞かせるように頼むのだが、反恋愛主義のベネディックはイライラするだけだ。そこで3人はベネディックに聞こえている事を確かめながら、ベアトリスはベネディックに恋をしているが、想いを告げる勇気がないらしいとうわさ話をする。ベネディックは驚くが悪い気はしない。なんとかもっと聞こうと3人に近づいていく - 3人も承知で話を続ける。

1人になり、ベネディックは改めて今聞いた事について思いめぐらし、実は自分も敵対するベアトリスに想いを寄せていることに気付く。ベアトリスがベネディックに夕食の知らせを告げに来るとベネディックはこの単なる知らせを彼女の愛の申し出だと勘違い。ベアトリスはこのベネディックの態度の変わり様に戸惑ってしまう。

2 第8場

ヒーローと侍女のマーガレットはベアトリスに恋の罠をしかける。彼女もベネディックが自分に想いを寄せていることを立ち聞きする。そして驚くと同時に心がとろけるような気持ちになる。彼女も2人の共謀者の話を聞こうと果樹園を走り回ることになる。ドン・ペドロとクローディオは恋にのぼせているのを必死で隠そうとするベネディックをからかう。

2 第9場

ドン・ジョンの企みが実行される。クローディオを自室に呼びヒーローの不貞を知らせる。そして今晚、式の前夜であるにも関わらず愛人を受け入れるつもりだと吹き込む。ドン・ジョンはクローディオに“証し”を見せようと誘い出す。クローディオは盲目にもこれに従い、その晩、ドン・ペドロに同行してくれるよう頼む。

その夜2人は、ボラチオがヒーローに見せかけたマーガレットを寝室の窓辺に呼び出し、キスをして入って行くのを目撃する。クローディオはひどく傷つき激しい怒りに飲み込まれる。

休憩

2 第10場

滑稽な治安官ドグベリーの指揮の下、番兵らが巡回している。彼らもまたドグベリーに劣らずバカげた様子である。彼らの主な任務は居眠り。そこへ酔っ払ったボラチオがやって来る。通りがかりの女に1,000ダカットの報酬を貰ってヒーローを裏切りクローディオを騙したことを白状する。バカげた様子でも番兵達はちゃんと聞いていて、ボラチオを逮捕する。

2 第11場

結婚式の日。ヒーローとクロディオの結婚が成立するかと思われたその時、クロディオは意義を唱え、無情にも皆の前でヒーローは嘘つきでふしだらな女であると非難する。ドン・ペドロもこれを支持する。レオナートさえも彼らの言う“証し”に動揺する。家父長制的な背景もあり、ヒーローは有力な男性達に対し自己弁護することもできず気を失い倒れてしまう。ベアトリスだけがヒーローをかばう。クロディオとドン・ペドロは退場。だが式の執行役であり、賢明な司祭が仲介する。司祭はヒーローの純潔を信じ、レオナートを説得する。レオナートも徐々にヒーローの無実を信じ始め、二人はドン・ペドロとクロディオの裏をかこうと反証を集める。また、ヒーローは結婚することなく教会で亡くなり明日埋葬されると公表する。

ベネディックが遅れて式にやってくる。そして司祭とレオナートの計画に加担することに。ベアトリスと2人きりになると、やっとお互いへの愛を誓いあう機会が訪れる。しかし一連の出来事が2人の間に影を落とす。ベネディックがベアトリスの為なら何でもすると誓うと、彼女は言う「クロディオを殺して」ベネディックは躊躇するも、愛の為であればと受け入れる。

2 第12場

裁判所 - クロディオをだましヒーローを辱めた罪でボラチオが裁かれる。彼は自分が仕掛けた冤罪によりヒーローが死んでしまったことをひどく悔やむ。ドグベリーはボラチオを罰し、ドン・ジョンの仕組んだ陰謀をレオナートに報告する必要があると判断する。ドン・ジョンは逃亡する。

2 第13場

レオナートはクロディオとドン・ペドロにヒーローの死を告げる。しかし彼らは全く動じず、人生や愛よりも名誉の方が大切だと狭量で自己的な性分を見せる。

ベネディックが登場。クロディオとドン・ペドロはベネディックに男性的ジョークやけんかに明け暮れる気楽な独身生活に戻って来て欲しいのだ。

しかしベネディックは断る。そして、ヒーローの名誉の為に死を覚悟の決闘を申し込む。全てはベネディックがベアトリスを愛しているからである。

ところが、ドグベリーが囚人ボラチオを連れてきて、ボラチオが全てを白状する。クロディオとドン・ペドロはヒーローが無実だということを知る。しかしヒーローの死は信じたままで。これこそがレオナートが意図した復讐であり、懲らしめである。ヒーローを非難した二人は深く反省し、許しを乞う。レオナートは彼らに2つの罰を課す。ヒーローのお墓へ行き彼女の無実を公にすること、そしてクロディオはレオナートの兄の娘と、姿を見ることなく結婚すること。クロディオとドン・ペドロはこれを受け入れる。

2 第14場

ヒーローのお墓。夜。クロディオとドン・ペドロはヒーローが無実であることを朗読する。謎めいた影が歌い踊り、彼らを囲む。まるでヒーローの霊が裏切られた純潔を突き付けてくるようでクロディオは自責の念でいっぱいになる。

2 第15場

ベネディックはヒーローの無実が証明されたことも、クローディオが許しを乞うたことも知らないままであるが、クローディオに決闘を申し込んだことでベアトリスの愛に相応しい男になったといえる。そこでベアトリスはベネディックにキスをし、とうとう結婚することに合意する。 - ただ2人の愛は秘密のままだ。

2 第16場

最後の結婚式　クローディオとドン・ペドロがレオナート邸のチャペルにやって来る　ヴェールを被った神秘的な女性がクローディオの結婚相手として差し出される。　クローディオは彼女の姿を見ぬまま結婚すると誓う。そして彼女がヴェールを持ち上げるとそこにはヒーローが　彼女は名誉を汚されたときに、死んでしまったそして今生き返ったのだと言う。2人は抱き合い、和解する。そして結婚、ベアトリスとベネディックも結婚する　ところが2人は今までのイメージが崩れてしまうことが気恥ずかしい。そこで周りから互いへの真実の愛を告白するように仕向けられる。ドン・ペドロだけが独身のままになる。全てがハッピーエンドで幕を閉じようとしていたところ、悪者ドン・ジョンが逮捕されたとの知らせが入る。そして囚われたドン・ジョンが現れ、クローディオから罰を受ける。最後に皆のダンスがはじまる。